

廣福寺だより

2024年1月



「親子ほうおんこう」でのもちつき

明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。

広大会の親子ほうおんこうでは、久しぶりのもちつき大会。親子のみなさんに集まってもらいました。正信偈のお勤めの後、当院の法話、そしていよいよもちつきです。

夏の流しそうめんも同じですが、イベントは多くの方々のエネルギーが集まって成り立ちます。もち米を作って届けてくださった方、石臼を寺に譲ってくださった方、都合をつけてお出でいただいた、もちつき経験豊かな世話方さんと、手際のいい勝手組のみなさん。目つぶしから、あいどりの方とのタイミングのいいもちつきが始まります。九十九パーセントおもちになったところで、いよいよ子どもたちにバトンタッチ。小型の杵きねでのもちつきですが、みんな「やったぞ」という達成感でうれしそうです。

つきたての、よくのびるおもちに、美味しいこうとう汁！配膳はお父さんお母さんにもお手伝いいただいて、みんなで手を合わせて「いただきます」。みんなニッコリです。

コロナ後、久しぶりに多くのご縁と力が結集して、ひとつの行事ができあがり、笑顔が生まれることを再確認いたしました。

報恩講

十一月七日(火)に、報恩講法要が勤まりました。住職登壇ののち、ご門徒の皆様と行譜正信偈六首引を唱和しました。

お勤めの後、出雲崎・萬因寺ご住職の高橋速円師からご法話を頂戴しました。

今年、戦争で供出した鐘楼が戻ってきました。元禄四年のご製作です。『文類正信偈』の中の「浄信」ということが刻まれています。当時は信心をめぐる論争が越後で巻き起こっており、その結果この辺りの多くのお寺が大谷派から佛光寺派へ改派しました。

私のお寺はそのときに住職が追放されましたが、そうした中でほんの数年の間に鐘楼を完成させました。製作交渉を担ったのはご門徒の方々でしょう。住職不在の厳しい状況の中でも信心を大切にするという固く強いご門徒の思いが短期間での完成に結びついたのではないのでしょうか。今と比べれば大変に生きにくい時代だったでしょう。しかしその現実に向き合い必死に生きられた。そういう時代に救われていく道を真剣に求められた。

今の私たちはどうでしょうか。ぬくぬくと生きていないでしょうか。道はいいし乗り物もあるし福祉もある。これほど便利な世の中で私たちは何が不満なのか。これが足りないあれが足りないと不満の連続。私の人生を代

わつてくれる人はいない。お念仏の道を歩むということはその教えに自分の生き方を問うということ。

私の生き方を問うた時、先の時代に生きたご門徒から、鐘楼に刻まれた「浄信」をテーマとして頂いたと思うんです。浄信ということばから、私の在り様、外見を気にする私、格好ばかり付ける私というものが浮かび上がってきます。私という人間は一体どういう存在なのか、どうなれば満足なのかを考えていく。自分で自分の始末をつけれない存在。玉ねぎの皮のように剥いても剥いても本性が見えてこない。その私の姿を知らしめてくれる教えに真剣に向き合った先人たち。必死に人生と向き合おうとし、助かるとはどういうことなのか、生きるとはどういうことなのかを必死に考えられた先人たちの思いを私たちはきちんと受け止めていかなければならないと思うのです。愚痴ばかりで終わっていくのか。報恩講にお参りをして、教えに出遇って、私たちを取り巻く問題というのは昔と今と変わらないということが明らかになっていきます。

どうもありがとうございます

『正信偈』の末尾に「道俗時衆共同心」という一句がございます。この時代に生きる仏道を歩む人も世間の人も、共に愚直にお念仏の教えを拠り所とする生き方をしていこうとの呼びかけです。昔も今も私を取り巻く問題の本質は変わらない。コロナの感染症もある、ウクライナの戦争もある。昔も同じような困

難はあったし今と何ら変わらないでしょう。そんな中で私たちが助かる道が本当にあるのか。何もない何もないとあえいで文句ばかり言つて、人を妬んでばかりで人生を全うしていくとなれば、あまりにもかわいそうな人生となってしまう。

私たちは縁あつてお念仏に出遇えたのです。だからこそその教えを深めていく。そのためには聞法なんです。お経を読むというのは声に出すこと。声に出すことではつと気づかされる。そういう日暮らしをしていくのが私たちの生き方として大事にされるのです。

(ご法話より一部抜粋)





広大会の様子

12/3(日) 親子ほうおんこう&もちつき

ー当院（男せんせい）からー

インフルエンザの拡大で延期もありましたが、無事に「親子ほうおんこう」を勤めることができました。巻頭言にもありますが、私たちはたくさんの人やものに支えられて生きているということを中心にお話をさせていただきました。

臼と杵でのもちつきは最近ではめっきり見かけない光景と思います。珍しい体験の中で新たな発見があったり、喜びがあったり、賑やかな声が響き渡る親子ほうおんこうともちつきとなりました。



10/28(土) 仏具みがき

11/7の報恩講に向けて、今年は子どもたちにも仏具みがきを手伝ってもらいました。一生懸命楽しそうに磨いてくれました。

